

表象文化論学会 the Association for Studies of Culture and Representation

第13回研究発表集会

シンポジウム：ポストトゥルースの表象と政治

再見真実——中国インディペンデント・ドキュメンタリーにおける歴史という被写体／秋山珠子（立教大学）

「ポストトゥルース」の位相——虚構と主体の縫合を問う／大橋完太郎（神戸大学）

SEAとポストトゥルース——その共犯性と攪乱／竹田恵子（東京大学） 司会：柿並良佑（山形大学）

2018.11.10 sat 13:00-18:40

場所 | 山形大学、小白川キャンパス人文社会科学部1号館

事前予約不要 会費 | 会員=無料 / 非会員=1000円

〒990-8560 山形市小白川町一丁目4-12

表象文化論学会

第13回
研究発表集会
プログラム

the Association for Studies of Culture and Representation

2018.11.10 [土]
13:00-18:40

場所
山形大学、小白川キャンパス (〒990-8560 山形市小白川町一丁目4-12)、人文社会科学部1号館

会費
会員=無料/非会員=1000円
事前予約不要

午後1 **13:00-15:00**
研究発表1

201教室

芸術の前線

——ローマ・クアドリエンナーレの貫戦史
鯖江秀樹 (京都精華大学)

サクリ・モンティとしての岐阜大仏

——アルド・ロッシの宗教建築観における
胎内の表象
片桐悠自 (東京理科大学)

細胞としての建築

——フレデリック・キースラーの「コリアリズム」
瀧上華 (東京大学)

司会 | 小澤京子 (和洋女子大学)

企画パネル
205教室

ボナールの絵画を めぐる冒険

シネマトグラフと絵画

——ボナールの光
横山由季子 (金沢21世紀美術館)

実在としての絵画

——ボナール、新種の宇宙の構成
樽沼範久 (横浜国立大学)

本と雑誌のなかのボナール

——象徴主義の時代を中心に
合田陽祐 (山形大学)

画家の眼で視るボナール

梅津庸一 (美術家)

司会 | 本田晃子 (岡山大学)

午後2 **15:20-16:40**
研究発表2

201教室

「一つの文」とは何か

——現代中国語小説の分析から
橋本陽介 (お茶の水女子大学)

アンゲロプロスからヴェイユへ

——『シテール島への船出』をめぐって
今村純子 (立教大学)

司会 | 北村紗衣 (武蔵大学)

研究発表3

205教室

記録写真の不透明さ

——ウジェーヌ・アジェの「黒い縁」をめぐって
久保和真 (大阪大学)

歌声聴取と聴診

——身体内部にひらかれる音のパースペクティヴ
堀内彩虹 (東京大学)

司会 | 細馬宏通 (滋賀県立大学)

研究発表4

202教室

オズワルド・ヂ・アンドラーヂに

におけるニーチェの影響

——キリスト教批判を中心に
居村匠 (神戸大学)

アナキズム道徳の表象可能性

——P・クロボトキンの相互扶助論の基底の問題
小田透 (静岡県立大学)

司会 | 森元庸介 (東京大学)

午後3 **17:00-18:40**

シンポジウム

ポストウルースの 表象と政治

301講義室

再見真実

——中国インディペンデント・ドキュメンタリー
における歴史という被写体
秋山珠子 (立教大学)

「ポストウルース」の位相

——虚構と主体の縫合を問う
大橋完太郎 (神戸大学)

SEAとポストウルース

——その共犯性と攪乱
竹田恵子 (東京大学)

司会 | 柿並良佑 (山形大学)

19:00-21:00 (会員のみ)

懇親会

大学会館 (大学生協) 2階
カフェテリア「テール」

*プログラムは予告なく変更されることがあります。詳細及び最新情報は表象文化論学会ホームページ (<http://www.repre.org/>) をご覧ください。

問い合わせ先

表象文化論学会第13回研究発表集会実行委員会

〒153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1

東京大学総合文化研究科表象文化論研究室内

FAX 03-5454-4336 E-mail conference@repre.org

URL <http://www.repre.org/>

関連企画

バザン・レリス・闘牛

——映画『闘牛』の上映とワークショップ

2018.11.11 [日] **10:00-14:30**

場所 | 人文社会科学部1号館3階301講義室

主催 | アンドレ・バザン研究会

共催 | 表象文化論学会、山形大学人文社会科学部附属映像文化研究所

*参加無料・事前予約不要

*問い合わせ先: アンドレ・バザン研究会 (cahiersandrebazin@gmail.com)

プログラム

・映画『闘牛』上映 (75分)

・映画解説「映画の生成変化としての闘牛——映画『闘牛』めぐるA.M.P.M.」谷昌親

・ワークショップ発表

「劇場としてのドキュメンタリー」大久保清朗

「ミシェル・レリスによる闘牛技、1937-51年」千葉文夫

「『存在論的猥褻さ』をめぐって——アンドレ・バザンにおける死の表象」角井誠

・ディスカッション&質疑応答